

日本の木、梅檀（センダン）ってなに？



センダンは、日本の比較的暖かい伊豆半島より以西に自生している樹木です。主に四国や九州以南に多く分布し、「家具のまち大川」でもあちこちで見られます。

センダンはとても大きく育つ樹木で、樹高は約 15m から 30mにも達し、5月から6月にかけて薄い紫の淡い色がグラデーションを描くように花を咲かせます。

日本も原産国とされ平安時代から日本人に愛されてきた歴史があり、魔よけの木として仏像や数珠などの仏具に用いられ、今でも数珠としても使われていて私たちにとっても身近な樹木です。近年では建築用材料として上がり框や床の間、家具などいろんな木工品に使われる、有能な樹木として古来から生活に根付いていた樹木です。センダンの花やセンダンの木材を見ると、なぜか癒されて落ちつく事に驚かされると思います。

センダンの英語表記は Japanese Mahogany (ジャパニーズマホガニー) とされ、世界三大銘木のマホガニーの仲間としても知られています。

(センダン : センダン科センダン属、
マホガニー : センダン科マホガニー属)

どうしてセンダンや国産材を家具につかうの？

昔から杉や桧などその他の国産材は家や家具などに多く使われてきましたが、高度成長期には多くの輸入材が建築や家具などに利用され、多種多様な輸入材が多く使われるようになりました。近年では豊富にあった世界の樹木が枯渇はじめ、違法に伐採されるケースなども目立つようになりました。

それに反比例するように日本の木材はあまり利用されなくなり、しだいに伐採量が減少しました。また山の管理には多額の費用がかかるため、多くの山が放置されるようになってしまい更に利用しづらくなる悪循環に陥りました。これは近年の豪雨による山崩れなど環境が損なわれ、また世界的に見れば地球環境にも多大な悪影響を与えています。

私たち大川家具は地球資源の恩恵を受けてこれまで発展してきました。その責務として約 10 年前から国産材利用家具の推進を行い、3 年前からセンダンの植樹活動を行っています。センダンの特長は、広葉樹で成長が著しく早いということです。植林しておよそ 15 年ほどで伐採できるまでに成長します。しかも成長が早いのに強度面に優れ、ほどよい堅さで加工がしやすいのも特長です。それになんと言っても木目が美しく、見ているだけでとても癒されます。

センダンや国産材の付加価値を高めて積極的に利活用し、植樹活動を継続し持続可能なサイクルを構築することは、私たち大川家具にできる地球環境保護の 1 つであり、家具産地としての使命感をもって取り組んでいます。